



花を通じてみんなを笑顔に!!感動の空間づくりのお手伝い。

西山園芸

西山 亜弥（にしやま あや）

幼い頃から身近にあった花の栽培。農業大学では花の研究をしていたが、卒業後は就農せずに別の道へ。緑豊かなこの地域の魅力を発揮するため、異業種の連携や農地の利活用、ふるさと納税を活用し地域の魅力創出と新たな販路拡大に挑戦している。

=DATA=
地　　域 皿沼
栽培品種 ペチュニア、ビオラ等の花壇苗
販売場所 西山園芸
　　ＪＡさいかつフレッシュファーム

▼就農のきっかけ

祖父はお米や野菜を父は園芸栽培をしていたので、子どものころから家の手伝いをすることもあり、農業は身近にありました。家族から仕事を継いでほしい。とは言われたことはなかったです。家族が目の前で忙しく働いているのに知らないふりはできないという思いもありつつ、別の仕事をしたいと思うことも。大学卒業後は、東京で一人暮らしをして営業や販売の仕事をしていました。その後、結婚を機に吉川へ戻ってきました。東京は、人がごちゃごちゃしているのでなんだか息苦しくて、吉川のような田園風景のあるところで農業をする方が自分に合っていると思い、正式にこの仕事に携わるようになりました。

▼コロナ禍の中での新たな挑戦

市の補助金を活用し市内の事業者と連携をして、農園滞在を楽しむことができる新しい事業を始めました。最近は、田んぼや花を観賞しながら焚き火を眺めてゆっくりとした時間を過ごす「満月瞑想会」というイベントを市内の事業者と一緒に開催しています。このイベントは焚き火と満月を観賞する他、飲食の販売やマッサージを受けることができる等のんびり過ごせるようなイベントになっています。このイベントを開催するときは、癒しの空間を提供できるように工夫していきたいです。咲ちゃんファームの野菜も販売することもありますよ。ここで開催されるイベントは、市街化区域に住んでいる方が沢山参加してくれています。市街化区域にお住いの方は自然に触れる機会が少ないので、そういった方たちにも、吉川市の田園風景の良さを知ってもらい、農業に興味を持ってもらえるように頑張っていきたいです。

▼一番のやりがいはお客様の笑顔

この仕事は、天気・気候に左右されるのでとても大変です。どの時期ならいいとかこの花ならいいとかそういう常識が通じない。年間計画は立てているけれど、なかなかその通りにはならないのが現実ですね。ここで育てた花は、東京の市場へ直接持って行っています。あとは、市内の農協直売所フレッシュファーム、市外のホームセンターがほとんどです。最近はお客様のニーズが変わってきていて、欲しいと思う時期を狙って栽培してはいるけれど、予想が外れてなかなか売れなかったり。でも、「西山さんのところで買ったお花がよかった」と生の声が聴けるのはうれしいですね。自然に大きく左右される仕事ですが、愛情をもって育てると美しい花を咲かせて応えてくれるそんな自分の子どものような花々を買ってくださるお客様の笑顔を見るのが農業をやっていてよかったと思える瞬間です。

▼今後の展望

今までは大量生産・大量出荷をしていましたが、難しい時代になってきたように感じます。かつてのガーデニングブームも落ち着いてきましたが、花のすばらしさを多くの方に伝えていきたいです。そんな思いから、年に何回か寄せ植えの教室を開いています。昨年、一昨年、美南小学校区親子寄せ植え教室を開きました。温室内で好きな花を選んで、好きなプランターに植えてもらい、終わったら焼き芋食べるみたいな…笑。小学校以外にも、市内の幼稚園で植え込みの依頼があることもあります。ちなみに寄せ植え体験で使用している土は、土と肥料の配分にこだわった、西山園芸オリジナルの土です。これからも地元に密着した活動をやっていきたいと思っていますし、花のある生活っていいなと思ってもらえるような活動をしたいです。







上）きれいな花が咲くように出荷前の摘み取り作業。一つ一つ手作業で行っている。左上・左下）西山園芸のハウス内は季節ごとに艶やかな花が並んでいる。